

災害対策は日頃の地域のつながりから

市民防災研修会
1月17日(日)

1月17日(日)、厚木市文化会館大ホールで平成27年度市民防災研修会が開かれました。厚木市自主防災隊連絡協議会の主催です。

第一部 厚木ガス職員の講演

①「厚木ガスの保安対策」

厚木市の都市ガスは厚木ガスによって供給されています。伊勢原市・平塚市・愛川町を含む約6万世帯です。原料の液化天然ガス(LNG)は、主にマレーシアなど東南アジアから輸入しています。

厚木ガスの地震対策についての説明がありました。

○予防対策

・耐震性の高い設備の導入と大地震に耐える構造

・180度曲げても壊れない柔らかい中圧ガス導管など

○緊急対策

・地域を6ブロック25地区に分割。

被害の大きい地域のみガスの供給を停止、被害の少ない地域へは供給を継続

・各家庭のマイコンメーターで震度5以上を感知したら、自動的に遮断

○復旧対策

・病院や避難所へ移動式ガス発生設備で臨時供給

・全国の都市ガス会社による応援体制

②「非常食の備え方」

↳ローリングストック法

一般に非常食は3～5年の長期保存できるものと考えがちですが、それだと賞味期限が切れたり、非日常的な存在になり、防災意識の妨げになってしまいます。

そこで、ローリングストック法です。

備える1週間分を目安に多めにストック。

食べる1日々の食生活に取り入れ、日常的に食べる。

買い足す1使った分を買い足す。

賞味期限の目安を1年とすると、レトルトやフリーズドライもストック対象になり、非常食の幅が広がり、多くの種類から選べます。ビタミンやミネラルを積極的に摂る。



地域住民・消防団による
救援・火災防止活動

2月 議会の予定

- 2月22日(月) 本会議
23日(火) 本会議
29日(月) 本会議(一般質問)
3月1日(火) 本会議(一般質問)
2日(水) 本会議(一般質問)
4日(金) 総務企画常任委員会
7日(月) 市民福祉常任委員会
8日(火) 環境教育常任委員会
9日(水) 都市経済常任委員会
10日(木) 常任委員会予備日
18日(金) 議会運営委・本会議
9時開会です。
ぜひ傍聴においでください。

的に摂り、健康を維持しましょう。災害時に食べなれたものを食べることは、心の安定にもつながります。一時的に熱源を失った場合に備えて、カセットコンロは必要です。季節を問わず、カセットボンベは常に多めにストックしておきましょう。普段から備えていることが、いざという時に役立ちます。

主食	お米、うどん、そば、パスタ、レトルトのおかゆなど
主菜	肉・魚の缶詰、レトルトカレーなど
副菜	味付けされていないトマトやコーン缶、海藻類、乾物など
調味料	しょうゆ、ポン酢、ソース、ケチャップ、マヨネーズなど
おやつ	ナッツ類、ドライフルーツ、チョコレートなど

第二部「大規模災害における互助の重要性」長野県神城断層地震について

長野県白馬村で、震度7ともいわれ被害が大きかった堀之内地区の元区長の鎌倉宏氏と、白馬村役場の渡邊宏太氏が講演をしました。

2014年11月22日午後10時08分ごろ、長野県北部でマグニチュード6.7の地震が発生。建物は全壊・半壊・一部損壊で539棟が被災しましたが、人的被害は重傷3名、軽傷20名、死者はゼロ。「白馬の奇跡」とも言われています。

でも、奇跡ではありません。当たり前のことを当たり前に実行したただけです。

災害時に地域で支援を必要とする人、支援する人の支え合いマップや自主防災組織図をつくり、毎年周知していました。

昔から、お互い助け合う「互助」の精神でやっています。日頃からの備えと地域の絆、人を思う助け合いの精神が早期発見・早期対応、救命につながったのです。

村には救急車が2台しかありませんが、消防団活動が盛んに行われていて、自分たちの生命は自分たちで守る意識ができていました。

近所の人同士で、壊れた家屋に閉じ込められた人を救助しました。近所が仲良くして生活していないと、いざという時、どの家に誰がいるのかわかりません。

一人の力は微力だが、無力ではありません。公的援助が来る前に、地域・コミュニティでできることがあります。近所の付き合いなど、日常生活でもつながりをつくっていくことが大切です。

地震の直後からずっと写真を撮り続けています。地域で300年前にも地震があったことを誰も知らず、地震の後で初めて知りました。地震のことを何らかの形に残し、後世に伝えたいと考えています。

防災について、日々、機会を設けて意識していくことが大切です。

世帯数・人口の少ないところでの事例ですから、そのまま厚木市に当てはまるとは思えません。

でも、消防や救急、自治体(公助)任せでなく、自分でできること(自助)、地域でできること(共助)を意識して広げていくことが必要であることを強く感じました。